

一. 傍線部「る」の文法的説明として適當なものを、次のア、ウから選べ。

へア. 受身・尊敬・自発・可能の助動詞「る」の終止形 イ. 完了・存続の助動詞「り」の連体形 ウ. 動詞の連体形活用語尾の一部

1 春の色のいたりいたらぬ里はあらじ咲ける咲かざる花の見ゆらむ (古今集)

二. 傍線部の文法的説明として適當なものを、次のア、ウから選べ。

へア. 完了(強意)の助動詞「ぬ」の終止形 イ. 打消の助動詞「ず」の連体形 ウ. ナ変動詞の終止形活用語尾

1 人知れずうち泣かれぬ。 (更級日記)

2 あはれ今年の秋も往ぬぬり (千載集)

三. 傍線部の文法的説明として適當なものを、次のア、エから選べ。

へア. 打消の助動詞「ず」の已然形 イ. 完了の助動詞「ぬ」の命令形 ウ. 願望の終助詞 (奈良時代) エ. 動詞の活用語尾

1 タされば小倉の山に鳴く鹿は今宵は鳴かず寝ねにけらしも (万葉集)

2 わが背子は仮庵作らす草なくは小松が下の草を刈らさね (万葉集)

四. 傍線部の文法的説明として適當なものを、次のア、オから選べ。

へア. 現在推量の助動詞「らむ」 イ. 完了の助動詞「り」の未然形+推量(婉曲)の助動詞「む」 ウ. 動詞の未然形活用語尾+推量(意志)の助動詞「む」 エ. 打消の助動詞「ず」の未然形の一部+推量の助動詞「む」 オ. 形容詞の未然形活用語尾の一部+推量(婉曲)の助動詞「む」

1 つゆ違はざらむと、 (徒然草)

五. 次の傍線部の文法的説明として適當なものを、次のア、エから選べ。

へア. 四段動詞「なる」の連用形 イ. 断定の助動詞「なり」 ウ. 伝聞・推定の助動詞「なり」 エ. 形容動詞の活用語尾

1 虫の音かごとがましく遣水の音のとやかなり。 (徒然草)

2 われのみや夜舟を漕ぐと思へれば沖べのかたにかぢの音すなり (万葉集)

六. 次の傍線部の文法的説明として適當なものを、次のア、オから選べ。

へア. 助詞 イ. 副詞の一部 ウ. 完了の助動詞「ぬ」の連用形 エ. 断定の助動詞「なり」の連用形 オ. 形容動詞の連用形活用語尾

1 夜はすてにほのぼのと明けゆけど、 (平家物語)

七. 次の傍線部の文法的説明として適當なものを、次のア、ウから選べ。

へア. 断定の助動詞 イ. 完了・存続の助動詞 ウ. 形容動詞の活用語尾

1 北には青山峨々として、松吹く風索々たり。 (平家物語)

1 七
ウ

1 六
イ

2 1 五
ウ エ

1 四
エ

2 1 三
ウ エ

2 1 二
ウ ア

1 一
イ